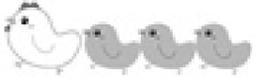




# 2017年 新年の決意



## 憲法改悪は許さない



町議会議員  
服部 久子

昨年、自公政権は「TPP関連法」や「年金カット法」「カジノ法」を強行通過させ、自衛隊を内戦状態の南スーダンへ派遣しました。沖縄でも辺野古新基地建設やオスプレイの飛行など、国民の多数が反対しているにも係わらず強行する姿勢は、独裁者と変わりません。

その上アベノミクスで格差と貧困が広がっています。税金を暮らしや教育などに還元される仕組みの確立が必至です。

また、安倍首相は通常国会に過去何度も廃案になった「共謀罪」法案の成立を狙っています。憲法が保障する「内心の自由」「集会、結社の自由」を脅かすことになり、自由にもが言えない戦前のような社会になる危険を秘めています。

今年も多数の議席を利用して通過させる危険をはらんでいます。

安倍首相の狙いは憲法改正で、そのために首相の任期を3期まで延長させました。

今年も衆議院選挙があると言われています。昨年夏の参議院選挙のように市民と野党が共闘して自公政権とそれに協力する勢力を追い詰めなければ「いつか来た道」になる怖さがあります。

そうさせないよう一緒に頑張ります。よろしくお願いいたします。

## 市民と野党の共闘強化を



町議会議員  
薄井 孝彦

新年あけましておめでとうございませう。

昨年の参議院選挙では、市民と野党共闘が進み、野党統一候補が11選挙区で勝利できました。このことは「本気の共闘」で取り組むなら政治を変えられることを証明しました。

今年も総選挙が予想されます。市民と野党との共闘を強め、新しい政治の流れをさらに発展させ

るよう全力で頑張ります。皆様のご支援・ご協力お願いいたします。

町政では、昨年、皆さまと共産党議員とで要求してきた「在宅介護者支援金制度」が復活しました。また、「人間ドッグ補助金」の改善も提案し、新年度からの実現に向け検討が始まっています。



2017年 衆議院  
長野2区予定候補  
清沢 達也さん

新年おめでとうございませう。

昨年は参院選で戦後初の野党統一候補を実現し、武田・杉尾両議員を国会に送り出しました。スタンディング、署名、対話など、草根で行動し政治を動かしたみなさんに心より敬意を表します。

TPP、南スーダンPKO、年金カット、カジノ推進など、安倍首相の暴走にだれもが怒りと不安でいっぱいです。暮らしの面でも「安倍さんがいい」という声はまったく聞かれません。私たちが安倍政治に代わる魅力ある選択肢を

4月からは、介護保険要支援1・2の訪問介護と通所介護が町の「総合事業」に移行します。使いやすい事業となるよう声を上げていきます。

今年も皆さまの声を町に届け、さらに住みやすく・美しく・発展する町となるよう頑張ります。

示すことができれば、政治を変える大きなうねりを作り出せるはずです。

先日開かれた日本共産党の大会は、これまで共に活動してきた団体みなさんに加え、野党各党の代表、「総がかり行動実行委員会」「市民連合」「首都圏反原発連合」など新しい団体・市民のみなさんに参加して頂き、野党と市民の共闘の画期をなす大会になりました。

今年こそ、国民・市民の力で安倍政治を終わらせ、戦争をしない日本、だれもが人間らしく生きられる社会をつくりましょう。来たるべき総選挙では野党連合政権にむけてみなさんとともに全力を尽くします。ごいっしょに新しい日本をつくりましょう！

## ファンクラブ総会と新年会 清沢達也さんをむかえて開催

1月22日に、福祉会館で恒例の総会と新年会が行われました。

総会では、1年間の活動報告と次年度の活動方針の提案があり、審議の上、可決されました。

大変お忙しいなか駆け付けていただいた、衆議院選2区予定候補（選挙戦になるまでずっと予定候補だそうです）の清沢達也さんは、「共産党の大会が開かれ私も参加しました。初めて4野党の代表が演台に並び、総がかり実行委員会や



市民連合などの挨拶もあり、野党と市民の連帯する大会となりました。国民感情・生活とかけ離れた安倍政治に対し、変革の展望を示せば大きく変わります。総選挙で市民と野党が力を合わせて、国民の声が届く政治をつくりましょう」と決意を込め、挨拶しました。

討議では補足意見として「全世帯の5割近くに配布しているファンクラブニュースは活動の要。読みやすい内容に心がけてもっと読者を増やそう」「若い世代の参加を意識的に取り組むことが大事。若い人の感覚を学びましょう」「読者の座談会・学習会を開いてほしい」などが出されました。

新年会は、会員のみならず、スタッフが持ち寄った、自慢の手作り料理を頂きながら、全

## 読者のひろば

皆さまからの投稿をお待ちしています。

## 聞いて！聞いて！

**ツレがうつになつて**  
うつ病は心の風邪と言われ、軽く考えてた。ツレがその再発を繰り返して、介護を必要とするようになるなんて8年前には考えてもいなかった。

正気に戻った寛解状態の時に当人が「小説に書いてもいいな」というほど普通には考え付かないような幻覚や幻聴が、初めての発症時には現れた。まるでアクション映画のストーリー。いつも誰かに見張られ、盗聴され、それでも家族に迷惑をかけられないという気持ちでツレを「生きていたら迷惑がかかる」と思わせていた。

しかし「あんたがいけないと困るの！支えがなくなっちゃうと困るの！」という私の言葉がツレの自殺を思いとどまらせた。後になつて聞いた。

遺書を書いて友人に託け、何かあ

Sさんのアコーディオン、Mさんの替え歌指導（青春時代II年金時代、酒を飲むぞII原発いらぬ）で、新年会が盛り上がりました。

今年中に衆議院選挙の実施が確実視されています。いつでも迎えうつ体制を作ることを、決意しあい解散しました。

つたら私に渡してくれと頼んでいた。そんなに思いつめていたとはつゆ知らず、ほとんどしゃべらなくなったツレをどうしてもつと話してくれないのかと責めていた。

今年、3度目の再発から2年になる。飲み食いできず点滴で過ごし、健康時に57kgあった体重が30kgまで落ちてしまった一昨年の夏。

今は決まったもの（1年以上上ロールパンにあんこだったのを卒業、今は完璧につぶされたポテトサラダ）しか食べられないとはいえず、何とか食欲だけは安定してきた。

元気があった頃、侃侃がくがく口げんかしていたのを思い出すとかなり寂しいし、お風呂に入らないなど言うことを聞いてくれないと腹立たしいが、それでも傍にいてくれるだけでもありがたい。ツレの存在を大事にしたいと思うこの頃。

S・Sさん